

2011年

4月20日(水曜日) くらしとしごとの駆け込み寺 - くらしとしごとの寄り添い支援センター開所式 -

本日は、「くらしとしごとの寄り添い支援センター」の開所にあたり、遠路、内閣府の湯浅参与をはじめ多数の御来賓の皆さんに御臨席をいただき、それこそ、大切な本所の誕生に寄り添っていただきまして、本当にありがとうございます。

まず、とても甚大な東日本大震災に、今、日本中や海外から支援の輪がますます拡がり、同時にたすけあいや支えあい、ひとりじゃない絆が東北・東日本を中心に日本中に紡がれて、人を想い人を支える強い絆で日本が改めて一つになっていくように感じています。

本市も、市民の皆さんには仕事や生活に日々懸命に営んでおられるわけですが、社会経済の総じて厳しい状況が続く中、生活や就労の問題に直面される市民の皆さんも少なくないと思います。そんな中で特に大切なのは、「困難に直面するその人に相対して問題に対峙する」というのではなく、「その人と同じ側に寄り添って問題をともに考えていく」という姿勢であると思っています。問題に対処する、ということももちろん大切ですが、それとともに、むしろその方が問題を解決しようとする、その力の支えになること、そんな気持ちの絆を結ばせていただくことも含めて、そういう「寄り添い」の姿勢が大事であると思います。さらに、それがひいては、自立される力を支えることにもつながってくるのだと感じています。とりわけ、問題が単発でなく、複雑に絡み合う複層的な状況になればなるほど、寄り添う姿勢、添って支える力が必要であります。

このような中、本日、開所を迎えるこのセンターは、当センターのパーソナル・サポーターのスタッフが、さまざまな困難や問題を抱えているひとを広く受け止め、「寄り添い、伴走」させていただきながら御支援を進めていくものです。このためには、市の関係部署はもとより、ハローワーク、京都府、社会福祉協議会、民生児童委員さんなど、広く関係機関の皆さんと緊密に連携をお願いをして様々に手探りしながらすすんでいくわけですが、常に、人を真ん中に、人に寄り添って、誠心誠意、尽くしてまいりたいと思います。ひとはみなのために、ということもそうですが、みんなでひとりのことを真剣、親身に考えていく、そんなワンフォーオールのまちづくりを、このセンターを中心に着実に進めていきたいと心から願っています。これから、多くの皆さんにこの尊い活動をお世話になりますが、心からよろしくお願いを申し上げる次第です。